



東京女子医科大学病院

医療連携ニュース

2013年 春号



病院長
立元 敬子

病院長あいさつ

医療連携ニュース2013年春号をお届けいたします。2012年夏に創刊して以来、地域連携の架け橋として皆様にお目とおしいただき感謝申し上げます。春号では、糖尿病の予防・治療から合併症までカバーする「糖尿病センター」(糖尿病・代謝内科と糖尿病眼科)をご紹介いたします。また、血液内科と小児科に新診療部長が就任いたしましたので、女子医大病院の新しい顔としてご挨拶をさせていただきます。さらに、眼科と糖尿病眼科がチームを組み、失明の原因となる黄斑疾患を総合的に治療する「黄斑疾患総合ケアユニット」を新しく外来に開設いたしました。今後とも密度の高い医療連携をめざし尽力してまいりますので、窓口となる社会支援部をぜひご活用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

診療部長あいさつ



糖尿病・代謝内科
診療部長
内潟 安子

糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科は、一般糖尿病診療とともに、サブスペシャリティ(小児ヤング、神経障害、肥満、腎症、フットケア、心血管障害、糖尿病妊娠、遺伝関連)診療をいち早く取り入れ、幼児から高齢者まですべての年代の糖尿病・代謝疾患に関連する疾患を、関連する合併症が多彩であっても、すべてを受け入れる診療を行っています。隣接する糖尿病眼科とは患者さんの動線をできるだけ短くお互い密接に連携して治療をおこない、術前術後管理も行っていますので、ご紹介の先生に安心していただいております。実臨床の先生方の高いニーズとご支援があったればこそ、このような糖尿病センターを構築することができました。糖尿病専門医を持つ医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士は、療養指導士の資格をもったスタッフとともに、もっと皆様のニーズにお答えしたいと毎日研鑽を積んでおります。



糖尿病眼科
診療部長
北野 滋彦

糖尿病眼科

1998年より糖尿病眼科の診療部長を担当させていただいております。糖尿病眼科は、糖尿病網膜症、白内障、血管新生緑内障など糖尿病眼合併症を専門に治療するわが国唯一の診療科で、外来・病棟ともに糖尿病・代謝内科と一体となり、特に全身管理を必要とする重症糖尿病患者の眼合併症の治療に取り組んでいます。電子カルテと画像ファイリングシステムを用い、蛍光眼底造影やOCT(光干渉断層装置)などの最新の検査機器のデータを瞬時に取り出して、詳細な病状を説明しております。網膜症に対する治療も、ステロイドや抗VEGF薬を併用する最新の治療法を積極的に取り入れ、硝子体手術では最新の照明装置や内視鏡を用い、生体への侵襲や患者さんへの負担が少ない、23ゲージ・システムを用いた小切開硝子体手術を導入して、より安全で確実な治療を実践しています。



黄斑疾患総合ケアユニットのご紹介

この度、東京女子医科大学病院に、眼科と糖尿病眼科の両診療科合同の「黄斑疾患総合ケアユニット」を開設致しました。黄斑は人間の中心視力を担う、いわば視覚の中核ともいえる部位です。当ユニットでは社会的失明原因として重要な「糖尿病網膜症」や「加齢黄斑変性」をはじめ多岐にわたる黄斑疾患に対して、最高レベルの診断と薬物治療、あるいは手術治療を行い、患者さんのクオリティ・オブ・ライフ(QOL)を最大限に守るべく全力を尽くすことをお約束致します。

ご紹介頂いた患者さんにつきましては迅速に病状の説明と治療方針につき報告をさせて頂き、治療後のケアに関しても先生方と緊密な連携体制のもと、患者さん個々の状況に応じたテーラーメイド医療を実現させて頂き参ります。また実際の診療にとどまらず、臨床現場から得られた情報をトランスレーショナル研究にフィードバックさせ、新規の診断法、治療法の開発にも取り組んでゆきます。

当ユニットが東京女子医科大学病院のみならず、日本、ひいては世界の黄斑疾患診療のメッカとなれるよう、スタッフ一丸となって努力致す所存です。是非とも多くの患者さんのご紹介を賜れますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子(VEGF)剤の硝子体内注射

フットケア外来のご紹介

当院糖尿病・代謝内科には、一般糖尿病診療とともに、7つのサブスペシャリティ外来があります。フットケア外来はそのうちのひとつで、糖尿病足病変の診療、ケアを一手に引き受けています(写真1)。

表は1989年から最近までの入院を必要とした足壊疽併発糖尿病患者数の動向です。2004年から増加してきています。これは足病変のある糖尿病患者さんを多く紹介していただいていることを示しています。

昨今、足潰瘍・壊疽の治療成績がよくなってきました。循環器内科との協力による血行再建術が迅速に施行できることと、局所陰圧閉鎖療法(V.A.C.[®]システム)を導入したことです(写真2)。潰瘍部に持続的に陰圧を加え、創縁を引き寄せ浸出液を吸引して、傷の治りを早くする方法です。

糖尿病患者さんは爪のトラブルも多く、陥入爪から爪周囲炎を起こし、骨髄炎へ進展する患者さんも少なくありません。爪肥厚や変形爪のネイルケアだけでなく、陥入爪に対してはVHOワイヤーを使用した矯正(自費診療)も出来ます。すこしのびらんでも、靴ずれでもけっこうです。糖尿病・代謝内科にご紹介ください。

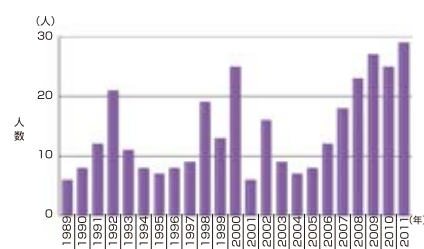


表:糖尿病センターに入院した足壊疽治療を必要とした患者数(1989~2011)



写真1



写真2



新任診療部長のあいさつ



血液内科
診療部長
田中 淳司

4月より血液内科診療部長に着任致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。
血液内科では鉄欠乏性貧血をはじめとする各種貧血、特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血のような非悪性疾患から、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、骨髄腫のような造血器悪性疾患など血液疾患全般をカバーしています。そのなかでもやはり女子医大病院では造血器悪性疾患が多く化学療法、造血幹細胞移植を積極的に行っており、高度の専門性を要求される分野であるため、地域医療に携わる方々との連携が欠かせない疾患領域と考えられます。また最近では主に悪性リンパ腫、骨髄腫などに対する化学療法を外来にて行うことも増えてきています。

これからも一人でも多くの難治性血液疾患患者さんの治癒をめざして、血液診療を行う医師・看護師・関係する医療スタッフみんなが結集した血液内科として血液疾患の化学療法と移植療法の発展に一層の努力を行っていきたいと思います。重篤な血液疾患患者さんの化学療法、造血幹細胞移植を円滑に行うためには、地域の関連する病院の先生方との連携が欠かせませんので、今後もより一層のご支援と患者さんの御紹介をどうぞよろしくお願い申し上げます。



小児科診療部長
小児総合医療センター長
永田 智

本年4月から小児科診療部長に着任いたしました。宜しくお願い申し上げます。
小児科は、物言わぬお子さんの頭の前からつま先まで診て、からだの異常を見つけ、必要に応じて専門の部門に送らなくてはならない責務を負っております。かたや、大学病院としての専門的・先進的な診療活動を展開していくということも期待していただいております。このような社会の大学病院小児科への様々なニーズにお答えするためにも、従来からの当科の看板であった「神経・筋疾患」の専門的診療に加えて、内分泌・代謝、アレルギー、呼吸器、栄養・消化器・肝臓、血液・腫瘍などの各診療部門の拡充・強化を図って参ります。昨今増え続けている児童精神部門については、日本全国で対応できるところがたいへん少ないのが現状ですが、当外来では心理士3名が常駐し、これまで通り力を入れて参ります。また、これも最近話題になっている食物アレルギーに対しては、経口食物負荷試験を安全な体制で行い適切な栄養指導を施して参りますし、アトピー性皮膚炎の患者さんには、スキンケアを主体としたきめ細かい指導を心がけておりますので、お困りの患者さんがいらっしゃいましたらどうぞ相談ください。
今後は、循環器小児科、腎臓小児科、新生児科、小児外科との相互の連携を強化して、小児総合医療センターとして、最適な小児医療を目指して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

東京女子医科大学 第32回公開医学講座のご案内

眠りの大切さを再認識する — 精神疾患や生活習慣病との関わりも含めて —

日 時：平成25年5月18日（土）13:00～16:40

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：一般医家、コメディカル、医学生

参加費：無料

*女子医大医師会共催

*日本医師会の生涯教育講座に認定されています。
ご希望の方に参加証をお渡します。

プログラムは

<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>
<セミナー・イベント・学会のお知らせ>をご参照ください



セミナー・研究会のご案内

第41回 東京女子医科大学 在宅医療研究会

- テーマ：女子医大が目指す在宅医療のカタチ
～タイミングを逃さない在宅調整～
- 日 時：平成 25 年 6 月 27 日 (木) 午後 7 時～ 9 時
- 会 場：東京女子医大病院 臨床講堂 2 (弥生記念講堂 B1F)

病院と地域の医療者の退院に対するタイミングの捉え方に違いはあるのだろうか…
在宅診療の先生、看護師さん、地域包括支援センターの方々との意見交換を行いたいと考えています。

費用：無料 事前申し込みはありません。
詳しいプログラムは <http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/SW/> でご覧下さい。

一般社団法人 日本人工臓器学会 教育セミナー

－ 体外循環と補助循環 －

- 日時：平成 25 年 7 月 13 日 (土) 14 日 (日)
- 会場：東京女子医大病院 弥生記念講堂
東京都新宿区河田町 8-1 [交通機関]・都営大江戸線 若松河田駅 下車 3 分
・都営新宿線 曙橋駅 下車 5 分
・都営バス 新宿西口駅発 ～ 東京女子医大病院着

日本人工臓器学会では体外循環装置を扱う若い外科医と技術者を対象に、教育と知識向上を目的として、教育セミナーを開催しております。今回で29回目を迎え、学会事業の一環として会員各位、関連団体から高い評価を得ております。体外循環の病態生理、ガイドラインに基づいた安全な人工心肺操作法と言った基礎から、胸部および胸腹部大動脈瘤手術の体外循環のような複雑な体外循環、また小切開心臓手術時の体外循環といった新しい話題に至るまで幅広い内容を網羅したセミナーの企画を予定しています。

※詳しい日時、申込方法はインターネットで配信致します。

医療連携窓口のご案内

当院と地域の医療機関やかかりつけ医の先生方との連携の窓口として、紹介元の先生方からのお問い合わせや、電話やファクシミリによる外来診療やセカンドオピニオン外来の予約を行っております。FAXの専用申込用紙は当院ホームページ 社会支援部の「医療関係者の方へ」から専用申込用紙がダウンロードできます。是非ご利用ください。

- *予約専用電話 03-5269-7160 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>
- *FAX診療予約 03-5269-7387 <月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00>

